

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 藤井 彩乃

## 1. はじめに

平成29年2月26日～3月10日の2週間、オーストラリアにおいて薬学語学研修を行いました。現地では、ホームステイをしながら専門学校に通い、英語力の向上に取り組みながら現地の薬学について学びました。その内容について報告します。

オーストラリアは6つの州と特別地域からなり、シドニーが州都であるニューサウスウェールズ州のキングスクリフという街で、私たちは研修を行いました。また、私のホームステイ先は、同じくニューサウスウェールズ州のポッツビルという街にありました。



(NSW と QLD の州境)

## 2. 事前研修

今回の薬学語学研修は、1～5年生の8人が参加しました。私にとって初めての留学であり、多くの不安がありました。が、観光客の方が事前研修会を開いてくださいました。事前研修会では、現地でのプログラム概要や海外渡航における諸注意などの説明を受けるだけでなく、主体性・関係性・多様性を考えるワークショップを受けさせていただきました。具体的には、自分が研修に行く目的を明確にしたり、未知の自分に気付くために自己分析・他己分析をしたりしました。さらに、実際に現地についての事を想定して、ロールプレイなども行いました。この事前学習があったことで、海外研修に対する不安も軽減され、ホームステイや研修において、積極的に学ぶ意識を向上させることができました。

### 3. 現地研修校

ニューサウスウェールズ州の最北に位置するキングスクリフという街にある North Coast TAFE Kingscliff Campus に通いました。TAFE とは、オーストラリアに 100 校以上ある、州立の高等職業訓練専門学校です。TAFE では美容師、マッサージ、調理師、自動車整備、ビジネスなど多岐にわたるコースが開かれていました。生徒の 9 割以上は現地のオーストラリア人ですが、留学生も多く、英語のコースも開かれていました。私たちは、英語の授業と薬学の授業を受講しておりました。他にも、アボリジニの文化を学びに Fingal Head へ行ったり、TAFE の他の生徒との交流をしたりもしました。授業は大学から一緒に研修に来た 8 人のみで受講していたので、交流会以外で他の生徒との関わりはなかったのですが、お昼休みに積極的に話しかけてみることで、他のコースの生徒と自主的に交流する事ができました。



(お昼休みに話したデザインコースの学生と)



(TAFE)

### 4. English class

英語の授業では、先生が私たちのレベルや希望に合わせて授業内容を組んでくださり、スピーキングを中心に文法やリーディング、発音なども学びました。毎日行っていたスピーキング練習は、“What time...?” “How many...?” “How long...?” “When...?”などが書かれた紙がランダムに配られ、書かれている疑問文の続きを自分で考えて作り、その後みんなですべての質問に答えていくというものでした。質問をする練習も質問に答える練習もでき、ホストファミリーとの会話に活かすことができました。印象に残っている授業は、大きな画用紙の真ん中に Australia と書き、そこから連想を広げて、それについて自分が思うイメージを形容詞(casual や friendly など)で書き出していくというものです。これによって、語彙力を高められただけでなく、オーストラリアの魅力を再確認したり、日本との違いを考えたりすることができました。



(English teacher と研修仲間)



(English class 授業風景)

## 5. Pharmacy class

薬学の授業では、オーストラリアにおける薬剤師の役割や医薬品の分類などについて学びました。

日本では調剤業務は薬剤師の業務ですが、オーストラリアでは **pharmacist** の他に **pharmacy assistant** や **dispensary assistant** が存在して調剤補助を行っており、**pharmacist** は薬学的知識を鑑査や服薬指導に活かすことができるとのことでした。また、日本ではひとつの処方箋で1回の調剤しかできませんが、オーストラリアでは **Repeat prescription** というものがあり、同じ薬を飲み続けている患者はその処方箋を繰り返し使用することができました。繰り返し使用できるということは、医師の処方を変更して貰いに病院に行く手間が省けるという利点がありますが、それはつまり繰り返し調剤をしている間は医師による診察がないということなので、薬剤師が服薬指導の際に患者の状態を確認し、異変に気付く能力がとても必要となると思いました。

日本において医薬品は第1～3類に分類されていますが、オーストラリアでは **Schedule 1～9** に分類されていました。日本よりも細かく分類されているのかと思いましたが、毒薬や麻薬・向精神薬などの分類も含まれていました。日本では、それらの分類は別の法律で定められています。その点で、オーストラリアの医薬品分類は、薬学を勉強していない一般の方でも分かりやすいのではないかと思います。





(Pharmacy class 授業風景)

現地の薬局見学にも行かせていただきました。中規模・小規模の2つの薬局を見学し、店舗での配置を確認したり、実際に働いている薬剤師の方のお話も伺ったりすることができました。日本と違って驚いたのは、薬局でワクチン接種ができることです。オーストラリアでは薬剤師が薬局でワクチンを打つことができるとのことで、病院に行くよりも気軽に接種できるので、ワクチン接種率は高くなるのではないかと思います。

英語力の乏しい私にとって、薬学の授業は難しいものでありましたが、理解できるまで生徒同士で話し合ったり、先生に英語で説明したりすることで、だんだん理解できていく過程がとても楽しかったです。それと同時に、自分が日本の医療についてあまり理解していない事に気付きました。帰国してからの病院・薬局での実務実習において、オーストラリアとの違いを意識しながら取り組もうと思いました。



(薬局見学の様子)

## 6. 国際交流

通常の英語と薬学の授業は、今回大学から一緒に研修に来た8人で受講していましたが、その他にTAFEの他の生徒との交流会がありました。

1回目は、Remedial Massage コースの生徒たちとの交流で、それぞれペアになって会話をしながら実際に施術をしていただきました。Remedy とは「治療」という意味で、Remedial Massage とは治療目的で個々の患者に合わせて施術を行う医療的なマッサージの事です。



Relaxation massage とは異なり、まず患者のアセスメントから始まり、それをもとに患者ごとの治療を行います。私とペアになった生徒は、オーストラリア人と日本人でした。日本人の方は、日本でヨガなどのインストラクター兼マッサージセラピストをしている方で、短期の休暇を利用しオーストラリアで Remedial Massage を学んでおられました。日本では、まだ Remedial Massage は広く浸透していないので、オーストラリアで学んだ事を日本に持ち帰り広めていきたいとおっしゃっており、新しい事に挑戦する勇気をもらいました。

2回目は、他の English class の生徒たちとの交流で、教室でフリートークと簡単なゲームをして楽しみました。生徒たちは、ブラジル・ロシア・中国・日本など、様々な国出身の方々でした。フリートークでは自分の出身国について写真を見せながら語ってくれる方も多く、生徒みんながそれぞれの出身国をとっても誇りに感じている事が分かりました。これをきっかけに、私も日本の魅力を考えることができました。

## 7. 校外学習

薬局見学以外の校外学習としては、Fingal Head と Currumbin Wildlife Sanctuary に行きました。

Fingal Head では、アボリジニの文化について学ぶことができました。アボリジニは採取狩猟民族で、私が子供の時に遊んだ事のあったブーメランは、アボリジニが狩猟のために用いていたものでした。また、アボリジニは文字を使用しておらず、文化や知恵などは「物語」にして語り継いだり、絵に描いたりなどして伝えられてきたそうです。アボリジニは自然を最も大切としており、自然と調和して生きる文化でありました。私たちは、当たり前前に現代の文明の利器などに頼って不自由なく生きておりますが、原点である自然に感謝しなければならぬと感じました。





(アボリジニの食べる木の实を試食)



(アボリジニの「物語」)

Currumbin Wildlife Sanctuary は、Gold Coast にある動物園で、とても野生に近い状態で飼育を行っていました。カンガルーに餌をやったり、コアラを抱っこしたりするだけでなく、ウォンバットやタスマニアンデビル・ディンゴなどのオーストラリア固有の動物を見ることもでき、8人の研修生で休日を満喫しました。



(Currumbin Wildlife Sanctuary)



(カンガルーの餌やり)

## 8. ホームステイ

私のホームステイ先には、ホストマザーと10歳の息子、同居人の女性の方がおりました。TAFEまで車で20分程の距離にあり、毎日マザーか同居人の方がTAFEまで送り迎えをして下さいました。また、一緒に研修に来た仲間のうち2人のホームステイ先も近く、お互いのホストファミリーと遊ぶこともあり、とても良い環境でした。

初めは、聞き取ることも話すことも非常に困難でありましたが、ホストファミリーは聞き取れなかった事はゆっくり何度も繰り返してくれ、私が何かを伝えたい時もゆっくりと聞いてくれました。また、TAFEのEnglish classのhomeworkがほぼ毎日あり、そのhomeworkをホストファミリーに協力していただき、そこからファミリーとの会話も弾み

ました。時には、逆にホストブラザーの小学校の宿題を手伝うこともありました。こうして毎日会話をしていると、耳も慣れてきて比較的聞き取れるようにはなりましたが、スピーキングについては、なかなか自分が表現したいことを上手く話せないこともあり、語学勉強の意欲が高まりました。

2週間という短い期間でありましたが、ホストファミリーは色々な場所に連れて行ってくれ、様々な経験をさせてくれました。また、私は研修期間中に誕生日を向かえ、ホストファミリーや他たくさんの人たちに祝ってもらうことができ、とても幸せな誕生日を過ごすことができました。



(ホストファミリー)



(アボリジニスクールの子供たちに折り紙を教えました)

## 9. おわりに

事前研修会にて今回の海外研修における目標を「自分の意思を持ち、積極的に行動する」に決めました。私の性格は、よく言えば「周りに合わせる」、悪く言えば「周りに流される」だと感じていました。それについて改めて考えたとき、そもそも自分の意思自体があまりないのではないかと思いました。「自分は何がしたいのか？ どう思うのか？」「その意思を積極的に発言する」ということを常に意識しました。それは、この海外研修の参加を決意したところから始まっていたと思います。日本に帰ってきてからも、研修前と比べて大きく行動力がついたと感じました。何かしようとして悩んだとき、「あの時、見知らぬ土地で頑張ったのだから」とチャレンジする勇気を持つことができるように思います。

海外研修で得られるものは、英語力だけではありません。人間的に大きく成長できると思います。なりたい自分の像があるものの行動できていない、そういう時に一步踏み出すことが大切だと思います。その一步の選択肢として、海外研修も考えてみてください。今の環境と全く違う世界に飛び込むことで、自分自身について考え直すことができ、なりたい自分になるために何が足りないかを発見する事ができます。そして、海外研修後も何かに立ち向かう時、一步踏み出した経験が自分に勇気を与えてくれると思います。この報告書を通して海外研修参加を考えている人の背中を少しでも押すことができたなら幸いです。